マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第4部 4つの型

U10　理由型（なぜか）

アドバンス

対象：高校2年・偏差値50

1. 要点（ルール）
2. 例題　評論「沈黙を待つ」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　理由型のルール

R10-1　つながりテスト

「[理由]だから[――線部]。」と読み、間に説明が要らなければ直接の理由。間に命題が1つでも要るなら、それは一段前の理由（または背景）である。

R10-2　理由の3類型

①原因（因果）②目的（～ため）③意味内容（「なぜ〇〇と言えるのか」＝〇〇の意味内容を説明する。評論でよく出る）。

R10-3　小説は「気持ち＋きっかけ」

行動の理由は、行動を生んだ心情＋心情のきっかけ。ただし傾向であって規則ではない（――線部がすでに心情のとき・意味内容を問うときは心情を足さない）。

R10-4　要素の優先順位

直接の理由 ＞ きっかけ ＞ 背景。根拠（段落）のない要素、本文と矛盾する要素は入れない。具体例はそのまま書かず抽象化する。

R10-5　文末

原因・意味内容は「～から。」、目的は「～ため。」。

R10-6　採点表

要素ごとに配点がある。直接の理由に最も高い配点。字数超過は採点対象外になることが多い。

R10-7　二段の理由は字数でさかのぼる

評論の典型＝「AだからB、BだからC（――線部）」。少ない字数ならBを中心に、多い字数ならAまでさかのぼる。背景は最後。逆説の――線部は「なぜ矛盾しないのか」を説明する。

ルールの番号（R10-〇）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　評論「沈黙を待つ」

① 私たちは、話す力をみがくことには熱心だ。わかりやすく話す、相手を説得する、短い時間で要点を伝える。そのための本や講座はいくらでもある。それにくらべて、聴くことは、黙って座っていればだれにでもできることのように思われている。

② しかし、ほんとうに聴くことは、話すことよりもはるかに難しい。友人が悩みを打ち明けはじめたとき、私たちはしばしば、話の途中で「つまり、こういうことだよね」とまとめたり、「それなら、こうすればいい」と助言したりする。それは善意から出たふるまいである。だがそのとき聴き手は、相手の言葉を、自分にとってわかりやすい型にはめこんでいる。

③ そもそも人は、言いたいことがはっきりしてから話しはじめるのではない。言葉をさがし、言いよどみ、ときには言い直しながら、自分がほんとうは何に苦しんでいたのかに少しずつ気づいていく。言葉は、口に出される前から完成しているのではなく、話すという行為のなかで形をとっていくのである。

④ だとすれば、先回りしてまとめてしまう聴き手は、まだ形になっていない思いに、外から既製の形をあたえてしまうことになる。話し手は「わかってもらえた」と感じるかもしれない。けれどもそのとき、自分の言葉にたどりつくはずだった道は、途中でふさがれている。

⑤ 反対に、相手が言葉につまっても急がず、沈黙をそのまま受けとめる聴き手の前では、話し手は言葉をさがしつづけることができる。そうして、自分でも思ってもみなかった言葉に行きあたることがある。何もしないで待つことが、じつは相手をもっとも深く助けることになるのだ。

⑥ 何でもすぐにわかりやすくまとめることが求められる時代に、沈黙はむだな時間とみなされやすい。だが、聴くことの力は、その沈黙をおそれずに、相手とともにいることのなかにこそある。

問　――線部「何もしないで待つことが、じつは相手をもっとも深く助けることになる」とあるが、筆者がこのように述べるのはなぜか。百字以内で説明せよ。

解き方

1. **手順1　――線部の型を見る**
   「何もしない」と「もっとも深く助ける」がぶつかる逆説。答えは「なぜ矛盾しないのか」＝待つことが助けになるしくみを説明する。
2. **手順2　直接の理由（⑤段落）**
   沈黙を急がず受けとめる聴き手の前では、話し手は言葉をさがしつづけ、自分でも思ってもみなかった言葉＝自分の言葉にたどりつける。つながりテスト：「言葉をさがしつづけ、自分の言葉にたどりつけるから、待つことが助けになる」→そのままつながる。

3. **手順3　一段さかのぼる（③段落）**
   なぜ待てば言葉にたどりつけるのか。言葉は口に出す前から完成しているのではなく、話すなかで形をとるから。＝二段の理由「AだからB、Bだから――線部」（R10-7）。

4. **手順4　対比で輪郭をつける（②④段落）**
   先回りしてまとめると、まだ形になっていない思いに既製の型をあたえ、道をふさぐ。これと反対だから「待つ」が助けになる。

5. **手順5　字数でさかのぼる深さを決める**
   六十字ならB（直接の理由）＋対比を一言。百字ならAまでさかのぼる。⑥段落の時代の話（背景）は最後で、百字でも入れない。

要素表（材料を集める）

要素	中身	根拠	入れる？
直接の理由（B）	沈黙を待てば、話し手は言葉をさがしつづけ、自分の言葉にたどりつける	⑤	◎ 入れる
二段目の理由（A）	言葉は話す前に完成しておらず、話すなかで形をとる	③	◎ 百字なら入れる
対比	先回りしてまとめると、既製の型にはめ、道をふさぐ	②④	○ 入れる
背景	すぐにわかりやすくまとめることが求められる時代	⑥	△ 入れない
根拠なし	相手を尊重しているから／話し手が安心するから	なし	× 入れない

模範解答

模範解答（百字以内）　88字／100字以内

言葉は話す前から完成しているのではなく話すなかで形をとるので、先回りしてまとめずに沈黙を待てば、話し手は既製の型にはめられずに言葉をさがしつづけ、自分の言葉にたどりつけるから。

参考：六十字以内なら　57字／60字以内

先回りしてまとめずに沈黙を待てば、話し手は既製の型にはめられずに言葉をさがしつづけ、自分の言葉にたどりつけるから。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
直接の理由：待てば、話し手は言葉をさがしつづけ、自分の言葉にたどりつける	4点
二段目の理由：言葉は話す前に完成しておらず、話すなかで形をとる	3点
対比：先回りしてまとめる（既製の型にはめる）のではない	2点
文末が「～から。」・主述がねじれていない	1点
合計	**10点**

減点の型（こう書くと）	何点になる？ なぜ？
「何もしないで待つことが、相手を助けることになるから。」	――線部をくり返しただけ（同語反復）。0点。
「わかりやすさが求められる時代だから。」	背景だけ。つながりテストで間に説明が三つ要る。0点。
「相手を尊重することになるから。」	本文に根拠が無い。その部分は0点。
Aだけ書いてBが無い	一段前で止まっている。待つこととのつながりが見えず、直接の理由の4点が入らない。
百一字以上	字数超過。採点対象外になることが多い。

練習1　評論「待てない社会」

① 注文した品物は翌日に届き、送った文字にはすぐに「既読」の印がつく。私たちは、待たずにすむことを便利さとして手に入れてきた。そして、いつのまにか、待つことそのものを、取りのぞくべきむだとして感じるようになっている。

② けれども、世の中には、こちらの都合でははやめることのできないものがある。種をまいてから芽が出るまでの日数、傷がふさがるまでの時間、そして、人が何かを身につけるまでの時間である。

③ 人が育つとき、その歩みはけっしてまっすぐではない。わからないまま手を動かし、まちがえ、遠回りをし、ある日ふいに「わかった」と感じる。その「わかった」は、それまでの迷いやつまずきの時間に支えられている。迷っている時間は、成長からはずれた時間ではなく、成長そのものの一部なのである。

④ 自転車に乗れるようになったときのことを思い出してみよう。どこに力を入れればよいのかは、だれかの説明を聞くだけではわからない。何度もころびながら、体が少しずつ覚えていく。乗れた瞬間の「わかった」は、それまでころんだ回数のなかで、ゆっくりと準備されていたのである。

⑤ ところが、結果をすぐに求める社会では、この途中の時間が見えにくくなる。目に見える成果がまだ出ていない時間は、「何も進んでいない時間」として数えられ、早く切り上げるべきものとされる。迷っている者は、迷い終わる前に、正しい答えを手わたされてしまう。

⑥ こうして、待つことを知らない社会では、人は育ちにくくなる。答えをすぐにもらえることは、一見、親切に見える。だが、それは、本人が自分の力で「わかった」にたどりつく機会をうばうことでもある。

⑦ 待つとは、何もしないことではない。相手の時間を自分の時計で測らずに、その人の歩みにこちらを合わせることである。待つことのできる人がいるところでだけ、人は安心して迷うことができる。

問　――線部「待つことを知らない社会では、人は育ちにくくなる」とあるが、筆者がこのように述べるのはなぜか。百字以内で説明せよ。

① 要素表を書こう

要素(直接の理由・きっかけ・背景)	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60
									70										80
									90										100

100字以内(1マスに1字。句読点も1字)

練習2　評論(説明型)「わかりやすさの落とし穴」

① 「わかりやすい説明」は、いまや何よりもほめられる。むずかしい話を、図や身近なたとえに置きかえて、一度で頭に入るようにする。テレビの解説も、教科書も、会社の資料も、わかりやすさを競っている。その工夫は、たしかに多くの人を助けている。

② しかし、わかりやすさには、見えにくい落とし穴がある。説明をわかりやすくするとは、ものごとを、受け手がすでに知っている型に置きかえることである。たとえば、ある国の複雑な歴史が「善い側と悪い側の争い」として語られれば、聞き手はすぐに納得できる。だがそのとき、どちらの側にも属さない人々の暮らしや、時代によって入れかわる立場は、型に収まらないものとして切り落とされている。

③ さらに問題なのは、わかりやすい説明を受けとった人が、「わかった」と感じたところで考えるのをやめてしまうことだ。「わかった」という感覚は、問いを閉じる合図になる。型に収まらなかった部分は、そもそも存在しなかったかのように忘れられていく。

④ 学校の勉強でも同じことが起きる。公式を覚えて問題が解けると、私たちは「わかった」と思う。しかし、なぜその公式が成り立つのかと問われると、答えにつまることが少なくない。解けたという手ごたえが、なぜという問いを、先に閉じてしまったのである。

⑤ ほんとうに理解するとは、すぐには型にはまらないものに出会い、わからなさを抱えたまま考えつづけることではないか。わからなさは、理解の失敗ではなく、理解がはじまる場所なのである。

⑥ だとすれば、わかりやすさは、ときに理解のじゃまをする。わかりやすく説明する力は、たしかに大切だ。しかしそれと同じくらい、わかりやすさの外にこぼれ落ちたものを、もう一度拾いあげようとする姿勢が、いま求められている。

問　――線部「わかりやすさは、ときに理解のじゃまをする」とあるが、なぜそう言えるのか。本文全体をふまえて百二十字以内で説明せよ。

① 要素表を書こう

要素(直接の理由・きっかけ・背景)	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 110 120

120字以内(1マスに1字。句読点も1字)

解答と採点表

練習1　評論「待てない社会」

解き方

1. **手順1　直接の理由（⑤⑥段落）**
   結果をすぐに求める社会では、迷い終わる前に答えを手わたされ、自分の力で「わかった」にたどりつく機会がうばわれる。つながりテスト：「その機会がうばわれるから、人は育ちにくい」→つながる。
2. **手順2　一段さかのぼる（③段落）**
   なぜ機会がうばわれると育たないのか。迷いやつまずきの時間が成長そのものの一部だから。＝二段目の理由（A）。
3. **手順3　具体例を外す（①②④段落）**
   翌日配送・既読・種や傷・自転車の話は具体例。そのまま書かずに「結果をすぐに求める社会」とまとめる（R10-4）。
4. **手順4　百字で組む**
   A（成長には迷う時間が要る）→条件（結果をすぐに求める社会）→B（途中の時間がむだとされ、答えを先に与えられる）→「～から。」

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
直接の理由（B）	迷い終わる前に答えを与えられ、自分の力でわかる機会がうばわれる	⑤⑥	◎ 入れる
二段目の理由（A）	迷いやつまずきの時間は成長そのものの一部	③	◎ 入れる
条件	結果をすぐに求める社会では、途中の時間が「何も進んでいない」とされる	⑤	○ 入れる
具体例	翌日配送・既読／種・傷／自転車	①②④	× そのまま書かない

模範解答

模範解答（百字以内）　89字／100字以内

迷いやつまずきの時間は成長そのものの一部なのに、結果をすぐに求める社会ではその時間がむだとされ、迷い終わる前に答えを与えられて、自分の力でわかるにたどりつく機会がうばわれるから。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
直接の理由:答えを先に与えられ、自分の力でわかる機会がうばわれる	4点
二段目の理由:迷いやつまずきの時間が成長の一部(成長に欠かせない)	3点
条件:結果をすぐに求める社会では、途中の時間がむだとされる	2点
文末が「〜から。」	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「注文した品物が翌日に届く社会だから。」	具体例・背景だけ。0点。
「待つことはむだだから。」	筆者の主張と反対。0点。
Aだけ(「迷う時間は成長の一部だから。」)	社会との関係が無く、——線部とつながらない。3点。

練習2　評論(説明型)「わかりやすさの落とし穴」

解き方

1. **手順1　設問の型**
   「なぜそう言えるのか」＝意味内容型(R10-2③)。「じゃまをする」の中身と、「理解」とは何かを本文全体から説明する。逆説(わかりやすいのに理解をじゃまする)なので、なぜ矛盾しないかを書く。
2. **手順2　鎖をたどる**
   ②段落:わかりやすくする＝知っている型に置きかえ、型に収まらない部分を切り落とす。→③④段落:「わかった」と感じると考えるのをやめる(④は学校の勉強の例)。→⑤段落:理解とは、わからなさを抱えて考えつづけること。＝だから、わかりやすさは理解のはじまりを閉じてしまう。
3. **手順3　具体例を抽象化**
   「善い側と悪い側の争い」の歴史や、公式の例は書かず、「型に収まらない複雑な部分」「考えるのをやめる」と言いかえる。
4. **手順4　百二十字で組む**
   ②(切り落とす)＋③(考えるのをやめる)＋⑤(理解の定義)を、因果の順にならべて「〜から。」

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
鎖1	わかりやすくする＝知っている型に置きかえ、型に収まらない部分を切り落とす	②	◎ 入れる
鎖2（直接）	「わかった」と感じた人は考えるのをやめ、切り落とされた部分は忘れられる	③	◎ 入れる
理解の意味	理解とは、型にはまらないものに出会い、わからなさを抱えて考えつづけること	⑤	◎ 入れる
具体例	善い側と悪い側の争いとして語られる歴史／公式の例	②④	× そのまま書かない

模範解答

模範解答（百二十字以内） 109字／120字以内

わかりやすい説明は、ものごとを受け手の知っている型に置きかえて、型に収まらない部分を切り落とすうえ、わかったと感じた人は考えるのをやめてしまうので、わからなさを抱えて考えつづけるという本当の理解がはじまらなくなるから。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
わかりやすくする＝知っている型に置きかえ、収まらない部分を切り落とす	3点
「わかった」と感じると考えるのをやめる（問いが閉じる）	3点
理解とは、わからなさを抱えて考えつづけること（それがはじまらない）	3点
文末が「～から。」・具体例をそのまま書いていない	1点
合計	**10点**

減点の型（こう書くと）	何点になる？ なぜ？
「善い側と悪い側の争いとして歴史が語られるから。」	具体例のまま。0点。
「わかりやすい説明は理解のじゃまになるから。」	――線部のくり返し（同語反復）。0点。
②③だけで⑤が無い	「理解」の意味が説明されておらず、なぜ「じゃま」かが半分しか言えていない。6点。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U10 理由型(アドバンス)

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます